

令和5年度 日本大学 学生FD CHAmmiT

---

## 開催報告書

日本大学 学生FD CHAmmiT スタッフ一同



自主創造  
日本大学

09/10 (日)

# CHAmmiT 本番を迎えました！！

9月10日、日本大学学生FD CHAmmiTは無事に本番を迎えることができました。今年、『あなたにとって大学とは何ですか？～日大教育の未来について語ろう～』というテーマの下に、一般参加の学生や学生スタッフ、卒業生及び教職員を合わせて**245名**もの方々にご参加いただきました。去年と違い完全対面方式での開催となったことで、皆の熱い想いを直に受け取りながら**直接**議論するという、より「白熱したしゃべり場」になったのではないのでしょうか。参加者の皆様、ありがとうございました。また、CHAmmiTに携わる関係者の方々におかれましては、皆様のご助力あってこそこの本番であったと思っています。この場をお借りして、多大なるご支援をいただいたこと、スタッフ一同、心より感謝申し上げます。



『大学で、①何を ②何のために ③どのように 学びたいと思う？』

EX) レポート課題で文章力が  
ついた、専門科目以外も  
学べる、WiFi が教室によっては  
弱い……etc

## 大学で学ぶ 目的 を洗い出し

今年度は、昨年度のテーマを踏襲しつつ  
アフターコロナとなった今だからこそその「大  
学の在り方」を考えていきます。

最初のセッションは、学部混合で「大学で  
学ぶ**目的**」を議論しました。そして、授業環  
境での**良い点**、**改善点**、**要望**を振り返ること  
で、セッション2～3に反映させていきます。  
他学部の学生さんと話すことで自学部との  
相違点を発見することもあり、各自、学ぶ意  
義を再確認することに繋がったのではない  
でしょうか。ファシリテーターを中心に、**主観  
的・客観的に意見を集約させる**ことができ  
たと言えるでしょう。結果、多くの参加者の  
皆さんが初対面ということも忘れ、楽しそう  
に盛り上がっていました。



# 『あなたが大学に望む教育は何ですか？』

— あなたの理想は達成できていますか？ —

## 問題点の “整理”

セッション2では、セッション1の内容を活かし、学生と教職員両者の意見から考えていきました。なお、このセッションからは学部ごとに議論を重ねます。

日大教育の理想と現実の差から、自学部の問題点・改善点を可視化すると、次第に「私たちの理想の教育はどんなものなのか」が見えてきました。セッション1で共有した他学部の好事例を参考に、グループ内で意見を出し合っていくと、ふとした拍子に化学反応が起こることも。教職員の意見が良いスパイスになり、画期的な意見が出ることもありました！



| 理想                           |                              |                           |  | 現実                     |                           |                        |                                |
|------------------------------|------------------------------|---------------------------|--|------------------------|---------------------------|------------------------|--------------------------------|
| 他学部の授業も選択受講できる<br>山崎         | 経営者や日大生の経営者が特別講師をしてくれる<br>渡藤 | 授業にアークライプが多くて復習ができる<br>渡藤 | オンライン(Zoom)、オンラインアシスト(Plunet)など活用できる<br>大村 | 専門科目が多くて学が深い<br>清水     | 外部講師がよく来る<br>平井           | アクティブラーニングが少ない<br>渡藤   | 演習・実験などの実技が少ない<br>土橋           |
| 実際に卒業生や社会人の話を聞くことが出来る。<br>渡月 | いつでも気軽に相談できる環境<br>土橋         | 受けたい科目が受けられる<br>池村        | グループワーク多め<br>土橋                            | 対面やオンラインで選択の幅が広い<br>三上 | 対面とオンラインの授業の質が変わらない。<br>原 | 授業で学生同士交流する時間がない<br>山崎 | 演習・実験などの実技が少ない<br>三上           |
| 地域に活かせる授業・自治体と連携<br>大村       | 授業評価の統一化<br>渡月               | 豊富な課外授業<br>山崎             | ポータルシステムの改造<br>大村                          | 興味のある科目が多い<br>清水       | 課外授業が少ない<br>山崎            | 大学連携が少ない<br>中村         | 先生によって授業の質(レベル)や内容に差が大きい<br>大村 |
| 交流の機会が多い<br>大村               | 外国語の授業を増やす<br>清水             | フィードバックがどの授業にもある<br>清水    | 出席確認方法の統一<br>大村                            | 実験が1年からある<br>大村        | 体育と実験が同じ日にある<br>渡月        | 公欠の学生への対応がバラバラ<br>清水   | テストのフィードバックがない<br>清水           |

セッション2：参考意見

『あなたにとって、理想の大学とは何ですか？

～学部への提案～』

**改善策作成**

昨年の自学部の「学生への回答書」を共有し、今年度の提案書作成に向けて、現状の学部の良い点・悪い点に関して意見を出していきまいた。その上で、問題に対する改善案や要望を優先度が高い順に並べていきます。続いて、いよいよ提案書作成です！

**学部提案書作成**

今年度の学部提案書は、「理想の学部にするための提案」、「日大教育の未来のビジョン」の2つに分けて作成していきまいた。皆の理想が詰まった提案書は、学部に提出されます!!

**For example .....**

学部提案書 ( 生産工学部② )

| ①理想の学部にするための提案  | ②日大教育の未来のビジョン   |
|---|---|
| <p><b>学び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TAにすぐ質問をしている</li> <li>→TAに質問をする時間の制限</li> <li>→マニュアルをつくる</li> </ul> <p>発展的ではあるが、レベル別のクラス分けをする。少人数体制での授業をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の提案書の回答にもあるが、フィードバックを必ず行う。</li> <li>→最低限公開すべき内容を決める（マニュアル化する）</li> <li>点数のみでなく、詳しいコメントをする</li> </ul> <p><b>教員の負担を減らすために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→まずは、教養科目系の先生を他学部の先生にする。</li> <li>学生は様々な学びができる</li> <li>→専門の授業では企業の方や他のプロに授業をしてもらう。</li> </ul> <p><b>空き教室の利用</b></p> <p>教室ごとに授業での使用時間、授業名を書いた紙を入りに掲示する。ポータルサイトに教室使用一覧を載せる。</p> <p><b>設備</b></p> <p>モニターが一つしかないため、後の方は見えにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→前にだけではなく、後にもモニターを設置する。</li> </ul> | <p><b>交流</b></p> <p>友達を作りたい！</p> <p>チャットみたいな堅い話し合いではなく、ラフな感じで交流をしたい。</p> <p>他学部、他学科の科目を卒業単位として必修化する。</p> <p>⇒それにあたって、他学科履修を柔軟にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→オンライン化</li> </ul> |



ご参加いただいた皆様、

誠にありがとうございました！！

## 最後に

今回ご参加いただいた皆様と作成した「学部提案書」は、FD 推進センター（全学 FD 委員会）で共有し、のちに各学部にて「学部提案書」に基づいて、効果的な教育改善の実現に向け、具体的な検討フェーズに入る予定です。

今年度の CHAmmit は、7 回のスタッフミーティングと多くのオンライン研修を経て、スタッフの努力と研鑽が報われた、良い「しゃべり場」にすることができたと思います。学生スタッフだけでなく、公募ファシリテーターの皆様、OBOG スタッフの皆様、その他尽力いただいた皆様は、本当にお疲れ様でした！！今回「参加者」としてご参加くださった皆様におかれましては、機会がありましたら是非、来年度 CHAmmit にもご参加下さい。もちろん、学生スタッフとしてのご参加も大歓迎です。日本大学がより良い教育の場となるよう、これからも学生 FD CHAmmit を盛り上げていきましょう！！